

まえなかにし せっか

平成27年度前中西遺跡出土石戈速報展



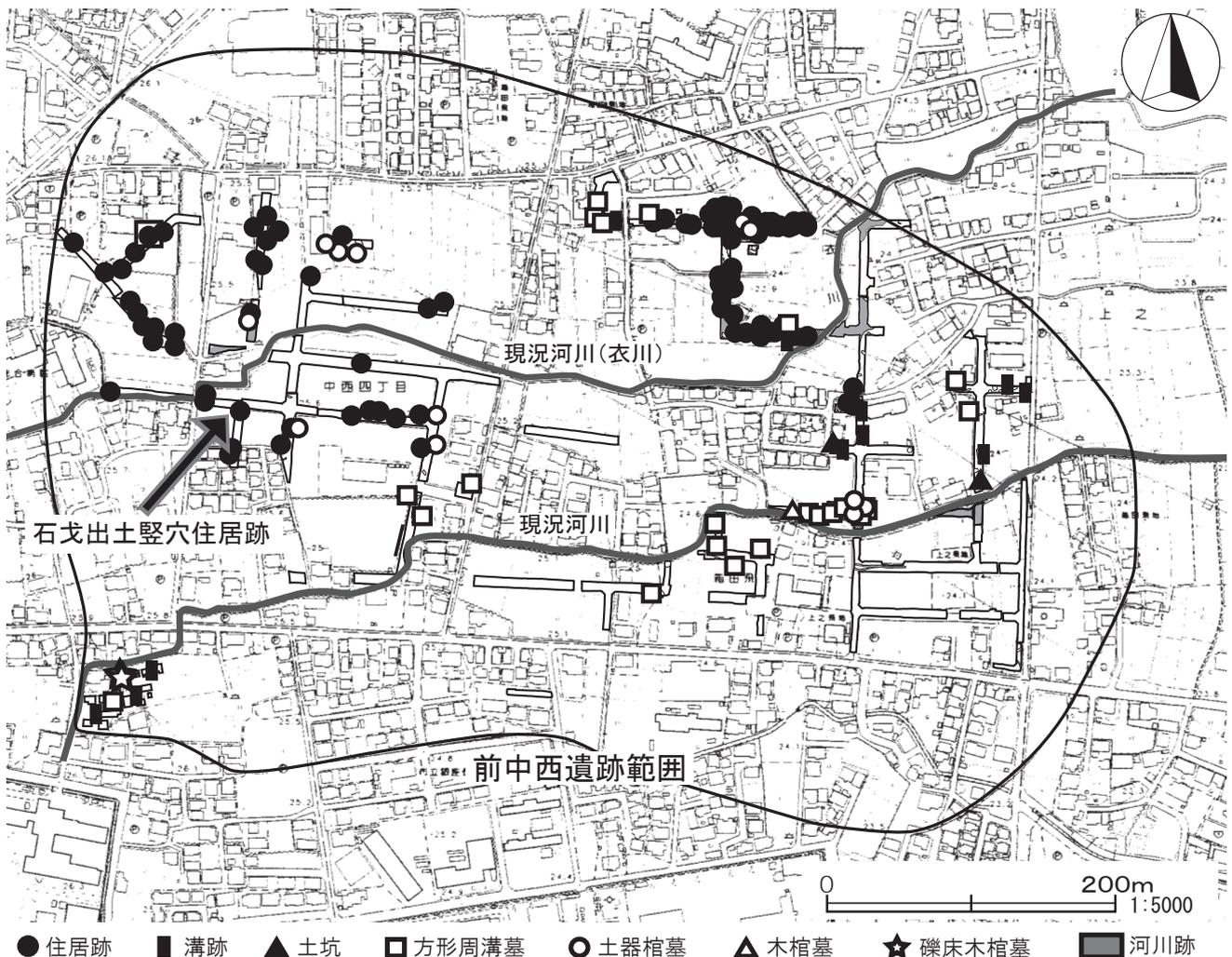
会期：平成27年10月1日～平成28年3月31日 会場：熊谷市立江南文化財センター展示室

1. はじめに

前中西遺跡では、土地区画整理事業を進めるにあたり、工事により遺跡が破壊されてしまう前に発掘調査を実施しています。平成27年5月から7月にかけて実施した発掘調査では、弥生時代と古墳時代の集落跡が見つかり、このうち弥生時代の竪穴住居跡から「石戈」が出土しました。

石戈とは、弥生時代に中国や朝鮮半島から伝わった武器形青銅器の銅戈を模倣して製作された日本独自の祭器です。前中西遺跡では、すでに埼玉県初の例として破片が1つ出土していることから今回で2例目となります。しかし、今回出土した石戈は、ほぼ全形がわかる上に文様も描かれており、全国的にも類例のない珍しいものです。非常に脆く、壊れやすかったため、保存処理・修復作業が終了したこの時期に速報展として一般公開することになりました。

みなさまぜひこの機会に約二千年の眠りからめざました弥生人の貴重な遺物をご覧ください。



第1図 熊谷市前中西遺跡弥生時代遺構分布図及び石戈出土地点位置図

2. 前中西遺跡について

前中西遺跡は、熊谷市東部の^{かみの}上之、末広三丁目、中西三・四丁目、^{はこだ}箱田に広がっています（第1図）。^{しんきあらかわせんじょうち}新期荒川扇状地の^{せんたんぶ}扇端部に立地しており、標高は約24 mです。これまでに実施した発掘調査の結果、弥生時代から古墳時代、奈良時代、平安時代、中・近世まで続く^{ふくごういせき}複合遺跡であることが分かっています。このうち遺構が最も多く見つかった弥生時代は、中期中葉（約2,100年前）から後期前半（約1,900年前）まで長期にわたり、大規模かつ当地域における^{きよてんてき}拠点集落であることが明らかになってきました。また徐々に長野県北部を中心に広がる文化を受け入れるようになり、^{ざいち}在地と^{がいらい}外来系の要素が組み合わさった独自の地域社会が形成されています。



写真1 石戈が出土した竪穴住居跡



写真2 石戈発掘作業風景



写真3 石戈出土状況（上から）



写真4 石戈出土状況（横から）

3. 平成27年度調査出土の石戈について

石戈は、弥生時代中期後半（約2,000年前）の竪穴住居跡の南西隅から出土しました（写真1～4）。全長約19cm、重量は約160gです。石材は黒色系の^{ねんぱんがん}粘板岩です（写真5）。

「援」と「胡」の一部を欠きませんが、ほぼ全形のわかる優品です（部位名称は第2図参照）。木製の棒に差し込むための「内」はありません。両面（A・B面）ともに「鑄」の両側に「樋」と呼ばれる溝があり、その中に^{ふくごうぎょもん}複合鋸歯文という文様が刻まれています。そして「樋」の根元にはひもでくくりつけるための「^{せん}穿」という穴があります。なお、前中西遺跡出土1例目の石戈（第3図）は、「援」のうち「樋」先端付近の破片です。石材は、2例目と同じく粘板岩です。

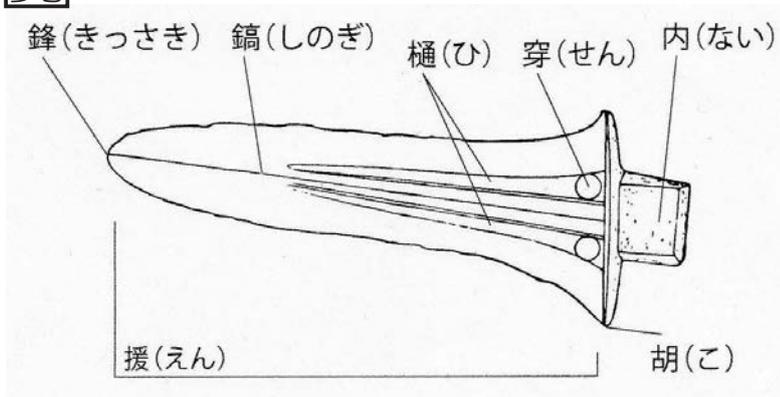


拡大



写真5 保存処理・修復後の石戈

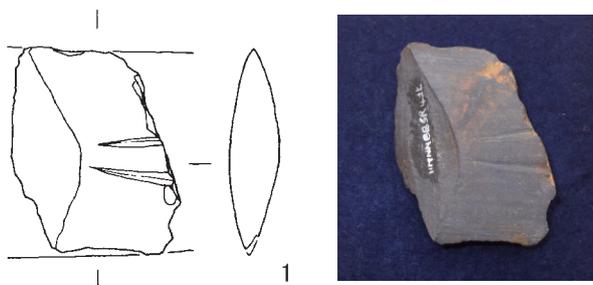
参考



第2図 銅戈の部位名称
(財長野県埋蔵文化財センター 2008)



写真6 石戈装着復元
(吉田2014より作成)



第3図 前中西遺跡出土1例目の石戈

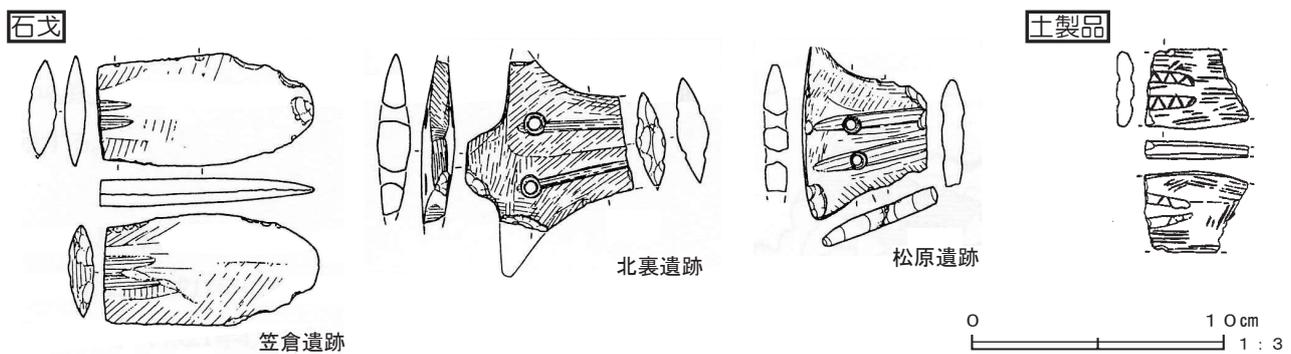
※1例目の石戈は、遺跡範囲南東部に分布する後期初頭
ほうけいしゅうこうほ
の方形周溝墓という成人用のお墓から出土しました。

4. 平成27年度調査出土石戈が意味することとは？

石戈は、武器形青銅器が出土する西日本に多数の出土例があります。東日本では約25点ありますが、特に長野県で14点と多数出土しています（第4図左）。石戈は、何らかの儀式の際、わざと折られることが多いため、大半が破片で出土します。しかし、今回前中西遺跡で出土した石戈は、ほぼ全形がわかり、しかも樋に複合鋸歯文が描かれています。樋に複合鋸歯文が描かれるのは、近畿地方で見つかる銅戈の特徴です。土製の模倣品としては新潟県上越市吹上遺跡^{ふきあげ}に出土例（第4図右）がありますが、石製としては今回前中西遺跡で見つかった例が全国初となります。

近年、長野県中野市柳沢遺跡^{やなぎさわ}では、複数の青銅器（銅戈8点・銅鐸5点）が埋納された遺構が発見され、長野県まで青銅器文化が到達していたことが明らかとなっています（写真7）。このうち5号銅戈は、樋に複合鋸歯文が描かれています（第5図）。今回前中西遺跡で出土した石戈は、こうした銅戈を実際に見た人によって忠実に模倣して製作され、本遺跡にもたらされたと考えられます。

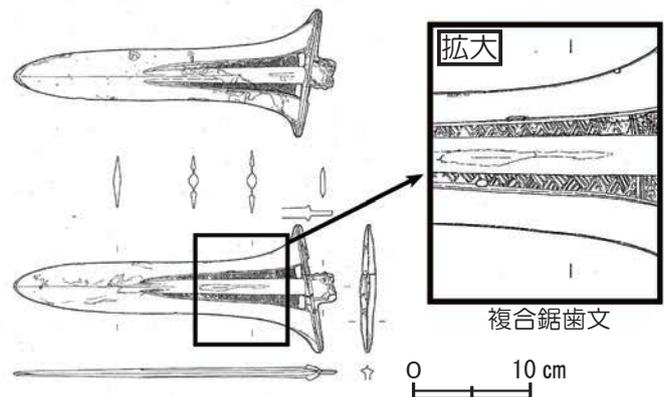
前中西遺跡の弥生時代は、次第に長野県北部を中心に広がる文化を受け入れるようになりますが、今回出土した石戈は、熊谷市周辺地域がその影響を受けていたことを物語る貴重な資料です。



第4図 長野県出土の石戈と新潟県上越市吹上遺跡出土土製模倣品（石川2012・2013）



写真7 長野県中野市柳沢遺跡
青銅器（銅戈・銅鐸）埋納坑
（廣田ほか2012）



第5図 長野県中野市柳沢遺跡青銅器埋納坑出土
5号銅戈（廣田ほか2012より作成）

<引用・参考文献>

- 石川日出志 2012「栗林式土器の編年・系譜と青銅器文化の受容」『中野市柳沢遺跡』長野県埋蔵文化財センター
2013「弥生時代研究と前中西遺跡」『シンポジウム熊谷市前中西遺跡を語る』関東弥生文化研究会ほか
（財）長野県埋蔵文化財センター 2008『みすすかる』15
廣田和穂ほか 2012『中野市柳沢遺跡』長野県埋蔵文化財センター
吉田 広 2014「弥生青銅器祭祀の展開と特質」『国立歴史民俗博物館研究報告』185

平成27年10月1日発行

編集・発行 熊谷市立江南文化財センター（熊谷市教育委員会 社会教育課 文化財保護係）